

ワークショップ1

「高齢者における消化管癌の薬物療法の現状」

司会 小松 嘉人（北海道大学病院腫瘍センター化学療法部）
加藤 健（国立がん研究センター中央病院）

近年消化管がんの薬物療法の治療成績は、免疫チェックポイント阻害剤や、抗体薬剤複合体（ADC）の登場や、周術期治療の高度化などで治療成績は改善している。一方で、選択肢の多様化、有害事象のマネジメントの複雑化などから、コンプライアンスや、有害事象に個体差が大きい高齢者に対する薬物療法が、臨床現場では大きなクリニカルクエッションとなっている。高齢者に対する抗癌剤投与の際の工夫や、治療効果や副作用について活発な討論を求める。